



自然を相手にする農業は、時に厳しいものですが、「四季を体で感じるができる感動」「自分が作ったものをお客さんに喜んでもらえる幸せ」「新鮮でおいしい食べ物を毎日食べることができるぜいたく」など、農家の皆さんは口々に魅力を語ります。

「子どもたちにも農業の素晴らしさ、かっこよさを伝えていきたい」と話す清野さん。

「安心して子どもたちにごはんをたくさん食べてもらいたい」という新井さん。

保育園で触れ合った子どもたちの楽しそうな笑顔に「子どもたちに良いものを食べさせてあげなければという想いを強くした」と語る竹内さん。

彼らは、丹精を込めておいしい農産物を作り上げているだけでなく、作り手の想いやストーリーを一緒に届け、付加価値を高めています。

そして、日々の自分たちの姿から、周囲に農業の魅力を発信しています。



市内ではさまざまな農家や団体が、農業体験や食育活動を通して子どもたちに地域の農業に触れられる機会を作ってくれています。

「中野市には、こんなにおいしいものがたくさんあるんだ」。小さい頃に育まれたこういった想いは、将来にわたって地元への愛着を深めてくれることでしょう。

農業の未来は農家の方だけの問題ではありません。私たち一人ひとりが考えていかなければいけません。

市内で頑張っている農業者の存在を知り、日々の買い物で地元産のものを手に取ってみたり、贈り物に中野市産の農産物を選んだりすることで、一人ひとりが「信州なかの農業の応援団」になることができます。

中野市の農業を未来の子どもたちへつないでいくために、私たち一人ひとりにできることを考えていきませんか！

【特集】 農業を未来へつなく
終わり